

事業所内における自己評価結果（公表）

別紙3

公表：令和6年3月22日

事業所名：一宮市たけのこ園

		チェック項目	はい	いいえ	わからない 無回答	工夫している点 課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室棟スペースとの関係で適切である	9	0	0	・月毎に人数が増加していく。人数増加に合わせて9月頃より2つの部屋を使用している。 ・2クラスの人数差がある時には人数調整をしている。	・下の子同伴もあり授乳スペース等が必要である。現在は“授乳中です”と紙を貼り出し部屋の一角を授乳スペースにしている。
	②	職員の配置数は適切である	4	3	2	・契約数に合わせた職員の配置数としては適切である。	・児の特性により1対1の関わりが必要だったり、保護者の支援(下の子同伴の場合など)によっては職員不足を感じているが、声を掛け合い、職員の位置を確認するようにしている。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7	0	2	・スロープがあったり、テラスにはマットを敷き段差がないようにしたりしている。	・段差のある遊戯室はクッションをつけて危険がないようにしている。足元に凸凹が無いようにしたり、滑りやすい場所を確認し滑り止めを設置したしている。
業務改善	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9	0	0	・毎日、掃除(シルバー加入)がされている。 ・親子が使う場所(ロッカー・靴箱・玩具・遊具)は必要に応じて消毒をしたり、定期的に消毒やほごりを取り除いている。 ・活動に合わせ玩具などを見えなくしたり、活動に合わせ遊びの場になる環境にしたりしている。	・トイレを出るとテラスのため暑い時期や寒さが厳しい時期にも着脱場所が室内ではない。 ・部屋の中に着脱場所は作っているが、適していないため課題である。
	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	9	0	0	・毎日、朝はその日の活動確認、活動終了後は、気づき、反省、評価、把握しておくべき物事、子どもの状況などを伝え合い、職員が共通理解をし、次の日につなげていくようにしている。	・休暇の職員や勤務時間帯が違う職員の勤務外に出た内容が把握できるように、話し合った内容を記載したファイルを所定の位置に設置し、いつでも誰でも見られるようにしてある。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9	0	0	・自園に対しての意見(評価表)を聞かせていただきその意見をもとに次へつなげ、いいこともそうでないことも活かしていきたいことを伝えて提出を依頼している。	・意向等を把握し直ぐに改善できることは行っている。直ぐに難しいことは上司に伝えるべきことは伝えて改善につなげている。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	0	1	・前年度の『保護者向け評価表』『事業所向け自己評価表』を、保護者が手に取って見られる場所に設置している。 ・全職員が保護者の評価表を見て把握できるように直ぐに回覧している。	・職員が把握できていないチェック項目があるため、理解できるように話し合いの場を設ける。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2	4	・現在は必要がないため行っていない。	・今後必要な事案があった場合は、上司に相談し行っていく。

		チェック項目	はい	いいえ	わから ない 無回答	工夫している点 課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	⑨	職員の資質向上のために、研修の機会を確保している	9	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修内容を回覧し希望によって参加している。</li> <li>・外部研修、課内研修に積極的に参加している。</li> <li>・定期的に研修参加の機会がありスキルアップにつなげている。</li> <li>・園内研修の機会を作っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に参加した職員が伝講する時間が取れないことが課題である。お互いの資質向上のため全職員が意識して“伝える”機会を作っていく。</li> </ul>
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の要望と子どもの発達に合わせた密な話し合い、助言、分析をした上で子どもに合わせた計画を作成している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約数増加の後半は密に話し合っていくことは難しいが、職員間でその日にアセスメントしたい人数を伝え合い、1日の人数調整をしながら時間確保をしている。</li> </ul>
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	0	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・療育の様子、1対1、遊びなどの様子を把握するため、日々、項目ごとに記録をとっている。</li> <li>・入園3ヶ月目、9ヶ月目に発達プロフィールを行なっている</li> <li>・新版K式発達検査を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続していく。</li> </ul>
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で具体的な支援内容が設定されている	8	0	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事、排泄、着脱、身辺処理、言語、人とのかかわりなど、生活面や社会面から一人一人に合わせた支援を保護者と相談してすすめている。</li> <li>・保育園、幼稚園など並行通園している場合は、連絡を取り合い連携するようにしている。</li> <li>・就園後は就園先に、1カ月以内に職員が出向き子どもの様子を見たり、自園と就園先と連携をとったりして子どもがスムーズに移行できるように途切れのない支援に努めている。保護者へもその内容を伝え、連携内容についても記録を残している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続していく。</li> </ul>
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて保護者と同じ思いで進めていけるようにし、その支援計画をもとに「月のねらい」を保護者と一緒に考えて、スモールステップで身につくような支援に心がけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の願いと子どもの姿が合致するように、支援計画を作成し、日々変化していく子どもの姿を照らし合わせながら、保護者と話し合い、支援を行うようにしている。</li> </ul>
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	9	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員で毎週の話し合いの中で活動内容を評価、反省し、新たな活動を取り入れる時にはホワイトボードに活動のねらい、保護者に伝えることを記載、活動を可視化して共通理解のもと行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続していく。</li> </ul>

	チェック項目	はい	いいえ	わから ない 無回答	工夫している点 課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	0	0	・毎日、毎週の話し合いで見直し、子どもの状況により、活動内容を変えたり、一部変えるなど工夫している。 ・発達に必要と思われるプログラムをST、OTからアドバイスを受け、取り入れながら考えている。	・継続していく。
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	9	0	0	・個別に1対1、言語訓練を行い、その姿に合わせ、ねらいを持ち、観察し様子を記録にとっている。それらをもとに多角的に子どもの姿を捉えて支援計画に反映させている。 ・集団の中で順番を経験したり、人との関わりなど、子どもの状況に合わせてたりした内容を支援計画に取り入れている。	・継続していく。
⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9	0	0	・療育開始前には必ずその日の打ち合わせをし、活動の変更点や個別に支援が必要な子どもには全職員が共通理解のもと行う。同伴している下の子の人数も把握し必要な支援ができるように職員配置を考慮し、役割分担をしている。	・継続していく。
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	0	0	・療育全体の反省、評価を行い、疑問に思ったこと、2クラスの活動内容を確認、子どもの対応に苦慮していることなどを伝え合い共有している。	・話し合いに参加できない職員には紙面に記録し、要点を口頭で伝え、全職員が共通理解し、周知できるようにしている。
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	0	0	・5領域(食事,排泄,着脱,身の回り,社会性)や情緒面から考え、その日の子どもの姿を詳細に記録している。 ・病院受診、就園先などの相談内容を記録している。 ・保護者との懇談や保護者支援についても記録をとっている。 ・苦情についても記録をとっている。	・継続していく。
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9	0	0	・日々、保護者と子どもの変化、成長を伝え合い支援の方法を確認しながら、3ヶ月毎にモニタリング(支援計画を見ながら)をし、保護者にも意識してもらうため、目標の変化などは支援計画に加筆してもらうこともしている。	・継続していく。
㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	1	4	・相談支援事業所を利用している子どもが1名在園。電話での連携をしている。	・サービス担当者会議が開催される時には子どもの状況に精通した者が参画していきたい。

	チェック項目	はい	いいえ	わから ない 無回答	工夫している点 課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	⑳ 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9	0	0	・保健センター、児童発達支援センターと連携をし、その子どもの療育の必要性を確認し合っている。 ・就園後に利用予定の児童発達支援事業所に対しては必要に応じて親子の様子を伝え、連携を取り合っている。 ・医療機関に対しては疑問に感じたことを質問することとしている。	・就園後、利用予定先の児童発達支援事業所と連携がとれていない事業所もあるため、会議(児童発達支援連絡会)の場で出会った時には伝え合えるようにする。
	㉑ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもを支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	2	4	3	該当児なし	・現在は医ケアの子どもは利用していないが、今後、受け入れが必要になった時には医ケアコーディネーターの話や重症心身障害施設職員に積極的に質問などをして学んでいきたい。
	㉒ (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもを支援している場合) 子どもの主治医や医療機関と連絡体制を整えている	2	4	3	該当児なし	・現在は医ケアの子どもは利用していないが、今後、受け入れが必要になった時には医ケアコーディネーターの話や重症心身障害施設職員に積極的に質問などをして学んでいきたい。
	㉓ 保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9	0	0	・保育園在園、満3歳で並行通園している子ども、入園前の子どもについて現在の様子を伝えたり、保育園、幼稚園での子どもの様子を聞いたりし、それぞれの場所での姿を把握するようにしている。 ・療育支援事業に参加依頼をし自園を知ってもらう機会としている。	・継続していく。 ・療育支援事業に参加していない園に対して参加や見学を呼びかけていく。
	㉔ 小学校や特別支援学校(小学部)等との間で支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	0	5	4	卒園後、小学校や特別支援学校へ進学する子どもがいないため行っていない。	・特別支援学校から年に1回(体験)見学希望などの内容用紙が送られてくる。今後必要な時には動向を把握していきたい。
	㉕ 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	9	0	0	・児童発達支援センターで開催される研修には積極的に参加している。 ・地域の児童発達支援センターより講師として招き、保護者向け、職員向けに講演を開催している。内容についても、保護者に伝えてほしいこと、職員が学びたいこと、知りたいことなどを依頼するようにしている。 ・他施設の療育支援事業にも参加している。	・継続していく。
	㉖ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	5	2	2	・特にはない。 ・市内公立園の園庭開放日程表を掲示し案内している。 ・幼稚園の園庭開放は各自でTELして聞こう助言している。	・継続していく。
	㉗ 自立支援協議会子ども部会や地域の子ども・子育て支援会議等積極的に参加している	2	2	5	園長が定期的に参加している。	・自立支援協議会へ機会があれば是非参加したい。

	チェック項目	はい	いいえ	わから ない 無回答	工夫している点 課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	⑩ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達状況や課題について共 通理解を持っている	9	0	0	・子どもの変化、成長を伝え合い、 保護者と喜び合ったり、保護者が 困っている時は声をかけ一緒に考え 合ったりして保護者と子どもの姿を 共通理解するようにしている。 ・懇談会を必要に応じて開催。成 長、変化を伝え合ったり、困った 保護者が感じる子どもの姿は今ま での発達状況などから原因を一緒 に探ったりし、関わり方も保護者の 想いも含めて対応するようにして いる。	・継続していく。
	⑪ 保護者の対応力向上を図る観点から、保 護者に対して家族支援プログラム（ペア レント・トレーニング等）の支援を行っ ている	8	1	0	・ペアレント・プログラム参加者募 集のポスターを見やすい位置に掲 示。 ・ペアレント・プログラムは2組の 保護者が参加した。	・ペアレント・トレーニングは行っ ていないが、月毎の園だよりなど で保護者の対応力が向上できる内 容を取り入れたり、講師を依頼し 「子育てについて」などの講演会 を開催したりしている。
保 護	⑫ 運営規定、利用者負担等について丁寧な 説明を行っている	8	0	1	・契約時に一つ一つ読み上げなが ら、説明している。 ・質問やわかりにくいところはない か確認しながらすすめている。	・保護者にとっては日常の中で聞く 言葉ではなく理解しにくい内容が あるため、表情も見ながら具体的 に説明をするようにしている。
	⑬ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達 支援の提供すべき支援」のねらい及び支 援内容と、これに基づき作成された「児 童発達支援計画」を示しながら支援内 容の説明を行い、保護者から児童発達 支援計画の同意を得ている	9	0	0	・アセスメントと子どもの発達段階 により保護者の願いも汲みとりなが ら、子どもの発達段階に対しての助 言、提案などを伝えて作成し、項目 ごとに丁寧に説明をしている。 ・具体的な例を用いて項目ごとに説 明し、より深く理解してもらえるよ うに心がけ、同意を得ている。	・継続していく。
	⑭ 定期的に、保護者からの子育ての悩み等 に対する相談に適切に応じ、必要な助言 と支援を行っている	9	0	0	・利用時の保護者の表情、子どもに 対しての関わり、療育中の子どもへ の眼差しなどをさり気なく気をつけ て観察をしたり親子に関わったりし ながら保護者に話しかけたりする。 緊急を要すると感じた時には別室に て話を聞く機会をつくっている。 ・日頃から話しやすい雰囲気になが ら話を聞く機会をつくっている。 ・児童発達支援管理責任者と担当の 2名で話を聞くようにしている。	・継続していく。
	⑮ 父母の会の活動を支援したり、保護者会 等を開催する等により、保護者同士の連 携を支援している	9	0	0	・OBが毎月開催している会の場所 提供、説明会の機会をつくってい る。持続できるように在園の保護者 に貴重な機会と伝えている。 ・日程表を配布している。 ・在園中は1年に2回、親子分離で 保護者同士が話せる機会を作ってい る。卒園後4月～6月まで月1回、座 談会を開催している。	・OB保護者会をコロナ禍で休止し ていた時があり、その時期から参加 数が減っている。参加すると先輩保 護者からアドバイスがいただける良 い機会と伝えている。 ・保護者の座談会の回数を増やした い。職員配置、参加人数を考えて いく。

	チェック項目	はい	いいえ	わからない 無回答	工夫している点 課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
者への説明責任等	③⑥ 保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談など必要に応じ開催している。</li> <li>・懇談会(就園)希望により、話をしたい内容を事前に聞いておく。日時を知らせる。</li> <li>・相談があった時には直ぐに対応。時間が足りない時には、別日を設定する場合もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分からの発信を遠慮される保護者もいる。保護者からの相談や申し入れを待つ体制ではなく、保護者の表情や様子から声をかけていき、相談しやすいように配慮している。</li> </ul>
	③⑦ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を保護者に対して発信している	8	0	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園だよりを毎月配布している。</li> <li>・音楽療法、言語訓練についての概要は、手紙によりわかりやすく記載し配布している。</li> <li>・園のTEL、アドレスは子どもの出席ノートに記載。</li> <li>・緊急時連絡先は用紙を提出してもらっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の変更がある場合は掲示するが保護者全員に把握してもらうことが難しいため、メール配信もしている。</li> </ul>
	③⑧ 個人情報の取り扱いに十分注意している	9	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机の上に置く必要があっても個人名が見えないように裏向きに置く。</li> <li>・書類は最終的に鍵のかかる書類庫へ入れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼間に書類庫の扉が開いた状態になっていることがあるため、必ず閉めるように周知していく。</li> </ul>
	③⑨ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもとの関わり方法がわかりやすいように、いくつもの指示を出さないように、やるべき1つの指示を出す職員の姿を見せたり、活動終了時の「おしまい」の手話を家庭でも使えるように保護者と子どもが行なう機会を活動に取り入れたりしている。</li> <li>・絵カード、写真カードの利用でわかりやすく示している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国の方には特にわかりやすいように説明をしていかなければいけない。子どもがわかりやすい言葉は日本語か保護者の母国語なのか保護者に聞き相談して進めている。</li> </ul>
	④⑩ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	2	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の高齢者3～4名の方に、月1回、紙芝居の読み聞かせをしていただいている。</li> <li>・地域のボランティアの方に親子分離が必要な保護者が参加する講演会などの時に、子どもに関わってもらっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民に開かれた事業運営は大切だが、各家庭の事情もあるため、慎重に検討する必要がある。</li> </ul>
④⑪ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に様々な事態を想定し訓練を実施。</li> <li>・訓練前に保護者に説明をして実施する。</li> <li>・終了後も協力に対しての労い、注意点を伝えている。</li> <li>・訓練後は職員全員で振り返りをして、その内容を記録し、反省点をもとに次回の訓練を実施するようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練日に利用しない場合もあるため、親子の訓練参加数を確認し、訓練に参加して事がない保護者に参加を呼びかけていく。</li> </ul>	

		チェック項目	はい	いいえ	わから ない 無回答	工夫している点 課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の対応	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な想定を具体的に保護者に周知しながら安全に避難できるように訓練を行っている。</li> <li>・一時避難場所、二次避難場所を伝えている。</li> <li>・自分の命(親子)を守る。助けが必要な時には「お願いします」など自分から発信することを願っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急事態(地震、火災)が起きた時には園に滞るか帰宅かの判断が非常に難しいことも予想されるため、兄弟がいる場合、別々の場所に家族がいる場合など想定を意識し、家族と話し合っておいてほしいことも伝えている。</li> </ul>
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	9	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子一緒のため、服薬や予防接種は母からの発信がある場合は、状況確認。</li> <li>・持病については、入園時に児童票の病歴欄をもとに聴取している。</li> <li>・全職員が情報共有するために、一覧表を作成し誰でもいつでも見られる所に保管している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変化があったり、新しい情報を得たりした場合は、その都度、情報共有していく。</li> </ul>
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	2	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギー有無は必ず懇談会に聴取している</li> <li>・親子一緒のため、指示書の提出はなく、食物アレルギーがある子どもに対しては何によりアレルギーが出るかは書類に記載してもらっている。</li> <li>・食事時、机の配置を気をつけている。</li> <li>・全保護者に食べこぼしなどを迅速に拾ってもらうようお願いしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重篤なアレルギー症状がある子どもが在園した時には、別部屋で食事を提供する対応も考えていく。</li> </ul>
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒヤリハットがあった場合には、その日の会議で全職員に伝え周知する。</li> <li>・ヒヤリハットの場面を取り上げ、環境改善や職員の役割について共通理解をし、記録にも残している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に情報共有して、危険箇所・場所などを周知し、環境整備、安全に努めていく。</li> </ul>
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の子どもに対する言葉かけや関わりを気をつけて見ていき、変化があった場合には、親子の側についていたり、タイミングや状況を見て声をかけたりしている。直ぐに園長に伝える。</li> <li>・園長が虐待防止委員会会議に参加し、虐待にあたる言動について話をしたり、事前に防ぐ必要がある場面について話題に上げ、考えるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続していく。</li> </ul>

チェック項目		はい	いいえ	わから ない 無回答	工夫している点 課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
④	どのような場合にやむを得ず身体的拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	9	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体拘束同意書の内容を職員で周知。</li> <li>・契約時に身体拘束同意書の内容を保護者に対してわかりやすく説明し承諾をもらい同意書にサインをもらっている。</li> <li>・日々の支援の中には着席を促す必要がある場面などは、保護者にも伝え、相談して共通理解のもとで進めている。</li> <li>・支援計画の『保護者支援』欄に“利用者の心身の状態並びに緊急やむを得ない場合は安全な方法をとらせていただきます”と記載し同意を得ている。</li> </ul>	・継続していく。
合計		352	28	43		

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。